

実践報告

第1回学校法人兵庫医科大学リハビリテーションセミナー 実践報告

西殿善由¹⁾、竹原崇登¹⁾、川口浩太郎²⁾、曾田幸一朗²⁾、古川徹³⁾、三島淳一³⁾、
大柿風央³⁾、平上尚吾²⁾、松沢良太²⁾、玉木彰²⁾、片山覚⁴⁾、内山侑紀⁵⁾、道免和久⁵⁾

- 1) 兵庫医科大学ささやま医療センターリハビリテーション室、2) 兵庫医科大学リハビリテーション学部、
3) 兵庫医科大学病院リハビリテーション技術部、4) 兵庫医科大学ささやま医療センター、
5) 兵庫医科大学医学部リハビリテーション医学講座

The Practice Report : The 1st Annual Seminar of Rehabilitation Medicine
in Hyogo Medical University Educational Foundation

Yoshiyuki NISHIDONO¹⁾, Shuto TAKEHARA¹⁾, Kotaro KAWAGUCHI²⁾,
Koichiro SOTA²⁾, Tohru HURUKAWA³⁾, Jyunichi MISHIMA³⁾, Nao OGAKI³⁾,
Shogo HIRAGAMI²⁾, Ryota MATSUZAWA²⁾, Akira TAMAKI²⁾,
Satoru KATAYAMA⁴⁾, Yuki UCHIYAMA⁵⁾, Kazuhisa DOMEN⁵⁾

- 1) Department of Rehabilitation, Hyogo Medical University Sasayama Medical Center
2) School of Rehabilitation, Hyogo Medical University
3) Department of Rehabilitation Technology, Hyogo Medical University Hospital
4) Hyogo Medical University Sasayama Medical Center
5) Department of Rehabilitation Medicine, Hyogo Medical University School of Medicine

抄 録

2023年1月21日にオンラインで開催された「第1回学校法人兵庫医科大学リハビリテーションセミナー(以下、リハビリテーションセミナー)」は、学校法人兵庫医科大学リハビリテーション関連施設における情報共有と相互研鑽を図ることを目的としており、2010年から毎年開催されていた合同セミナーが、兵庫医科大学と兵庫医療大学の統合を機に、兵庫医科大学リハビリテーションセミナーとして新たにリニューアルされ、第1回目として開催された。今回のリハビリテーションセミナーには、学校法人兵庫医科大学でリハビリテーション医療に関わる医師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士などを中心に、兵庫医科大学学生・大学院生も含め、法人内外から107名の医療専門職者がオンラインで参加し、82名がオンデマンドにて動画を視聴した。今回は慶應義塾大学医学部リハビリテーション医学教室教授の辻哲也先生から「がんのリハビリテーション診療-超高齢化社会に向けて-」というテーマで特別講演が行われた。

また、一般講演では各施設の研究成果を発表頂いた。今回のリハビリテーションセミナーを通じて、診療、研究、教育に関わる3施設は、今後もより一層協働していく必要性を再認識するとともに、本セミナーがその原動力となっていることを実感できる学びの多いセミナーとなった。

キーワード：学校法人兵庫医科大学、リハビリテーション、セミナー、実践報告

Key words : Hyogo Medical University Educational Foundation, Rehabilitation, Seminar, Practice Report

受付日：2023年7月20日 受理日：2023年11月14日

別冊請求先：西殿善由 〒669-2321 丹波篠山市黒岡5 兵庫医科大学ささやま医療センターリハビリテーション室

I はじめに

「学校法人兵庫医科大学リハビリテーション関連施設合同セミナー」は、兵庫医療大学が兵庫医科大学に統合されたことを機に、「学校法人兵庫医科大学リハビリテーションセミナー」（以下、リハビリテーションセミナー）としてリニューアルし、今回で12回を迎えた。リハビリテーションセミナーは、兵庫医科大学病院リハビリテーション技術部、兵庫医科大学ささやま医療センターリハビリテーション室、そして理学療法士・作業療法士を養成する兵庫医科大学リハビリテーション学部が共同して、診療、研究、教育の三本柱をより強固にし、質の高いリハビリテーションを推進することを目的として開催されている。今回、2021年と同様にCOVID-19が猛威を振るっていたが法人内の規定に沿って、対面で開催する運びとなった。準備が進む中、COVID-19の第8波の勢力が強くなり、対面での開催を断念し、オンライン、オンデマンド方式での開催へと変更を余儀なくされた。しかしながら、オンライン方式での開催でも107名の参加があり、その後のオンデマンド配信では82名から動画視聴され、学校法人兵庫医科大学の各施設で行われている研究について情報共有をすることができた。本報告では、第1回リハビリテーションセミナーの開催内容と今後の展望などについて述べる。

II 第1回リハビリテーションセミナー

第1回リハビリテーションセミナーは2023年1月21日（土曜日）にオンラインで行われた。プログラムを資料1に示す。

特別講演

第1回リハビリテーションセミナーでは、慶応義塾大学医学部リハビリテーション医学教室教授である辻哲也先生を講師として特別講演を実施した。「がんのリハビリテーション診療-超高齢化社会に向けて-」と題して、今後、想定される超高齢化社会に向けて、高齢のがん患者に対する治療や取り組みについてリハビリテーション診療や臨床研究の観点からご講演いただいた。

高齢がん患者において、標準治療に加えて生活の質（Quality of Life：QOL）が重視される。がん治療には、副作用による身体的・精神的な負担が伴うため、高齢者は、治療によって身体的な負担が大きくなるこ

とがあり、薬物有害反応による生活の質の低下が生じることが多い。また、高齢者は、身体的な負担の他にも、認知機能低下やうつ病などの精神的な問題が発生しやすくなる。そのため、高齢がん患者には、治療のリスクと利益をよく考慮して、個々の状態に合わせた最適な治療計画を立てることが必要である。また、高齢者は、がん治療に対する意思決定をするための情報を得ることが困難な場合があるため、家族や医療者が十分な情報提供を行うことが必要であることを報告された。

高齢者におけるがん治療の課題の1つに、社会的背景があり、高齢者は、社会的に孤立しやすく、治療に関する情報が少ない場合があり、医療費の負担も大きくなるため、治療を受けるかどうかを慎重に検討することが必要であることが報告された。

また、高齢がん患者は、ベースとなる機能的能力のレベルが多様な集団であり、がん以外の慢性疾患と共存し、治療がより複雑化する可能性がある。高齢がん患者を成人と同様の標準治療を受けることのできるfitと、そうではないunfitに区分し、治療前の段階でfitとunfitを見極めて、適切な治療選択を行うことが重要となる。そのための総合的な評価ツールとして高齢者機

第1回兵庫医科大学リハビリテーションセミナープログラム

2023年1月21日（土）
会場：オンライン（Zoom）

1. 開会の挨拶 14:00～14:05
2. 学長挨拶 14:05～14:10
3. 特別講演 14:10～15:10

座長：

慶応義塾大学医学部 リハビリテーション医学教室 教授 辻 哲也
「がんのリハビリテーション診療-超高齢化社会に向けて-」

（休憩 15:10～15:20）

4. 一般講演Ⅰ： 15:20～16:20

兵庫医科大学リハビリテーション技術部 言語聴覚士 栄元 一記
「頭部挙上筋力は誤嚥や咽頭残留を予測可能か」

兵庫医科大学リハビリテーション学部 理学療法学科 准教授 森 明子
「ウイメンズヘルスと理学療法」

ささやま医療センター リハビリテーション室 作業療法士 田内 悠太
「脳損傷患者における「できるADL」と「しているADL」に関する
Functional Independence Measure (FIM)の難易度比較」

（休憩 16:20～16:30）

5. 一般講演Ⅱ： 16:30～17:30

兵庫医科大学リハビリテーション科 医師 宮部 由利
「当院における小児に対するQI療法の取り組み」

兵庫医科大学リハビリテーション学部 作業療法学科 講師 田中 陽一
「慢性疼痛患者の疼痛律動性のタイプ分類および疼痛リハビリテーションへの応用」

ささやま医療センター リハビリテーション室 作業療法士 竹原 高登
「当院における脳損傷患者に対する自動車運転支援の実践について」

6. 閉会挨拶： 17:30～17:40

資料1. プログラム

能評価（Geriatric Assessment：GA）がある。GAのスクリーニングツールとしてはG8、VES-13、fTRST等があり、それらのツールを使用する重要性を認識することができた。

高齢がん患者に対して、治療に加えてリハビリテーションが必要であり、がん治療によって身体的な機能低下やADLの低下が生じることがあり、リハビリテーションによって、身体機能やQOLを改善することができる。しかし、高齢がん患者のリハビリテーションについては、十分なエビデンスが乏しく、個々の状態に合わせたリハビリテーションプログラムが確立されていない。近年、高齢者に対するがん治療についての研究が進んでおり、個々の患者に合わせた治療法が提供されるようになってきているが、高齢者に対する治療に関する知見がまだ不十分なため、今後も高齢がん患者を対象とした治療の研究や、エビデンスの蓄積が求められること、外来治療中の患者へのリハビリテーションの展望などが報告された。

一般講演

一般講演では、兵庫医科大学病院リハビリテーション技術部、ささやま医療センターリハビリテーション室、そして兵庫医科大学リハビリテーション学部から6名の先生方にご講演いただいた。

兵庫医科大学病院リハビリテーション技術部の栄元一記言語聴覚士からは「頭部挙上筋力と咽頭残留との関連について」と題して報告された。嚥下造影検査よりも簡便に行える、頭部挙上筋力や最大舌圧、開口力と咽頭残留との関係性について報告され、頭部挙上筋力は咽頭残留を予測する上での1つの指標となり得る可能性が示唆された。

兵庫医科大学リハビリテーション学部の森明子准教授からは「ウイメンズヘルスと理学療法」と題して報告された。ウイメンズヘルスと理学療法の歴史、エビデンスに基づいた理学療法介入の有効性、理学療法士の参画の展望について報告され、ウイメンズヘルスと理学療法の関連性、重要性を認識することができた。

兵庫医科大学ささやま医療センターリハビリテーション室の田内悠太主任作業療法士からは「脳損傷患者における『できるADL』と『しているADL』に関するFunctional Independence Measure（FIM）の難易度比較」と題して報告された。Rasch分析を用いて「できるADL」と「しているADL」のADL構造を示し、乖離を見つけることで、その施設における脳損傷患者の生活機能向上に向けた効果的な関わり方や対策を示

すことができる可能性が示唆された。

兵庫医科大学医学部リハビリテーション医学講座の宮部由利助教からは「当院における小児に対するCI療法の取り組み」と題して報告された。兵庫医科大学で行われた、小児に対するCI療法の取り組み、小児疾患へのCI療法導入の難しさや工夫について報告され、小児に対するCI療法の有効性が示唆された。

兵庫医科大学リハビリテーション学部の田中陽一講師からは「慢性疼痛患者の疼痛律動性のタイプ分類および疼痛リハビリテーションへの応用」と題して報告された。慢性疼痛の律動性について3つの異なるリズムタイプの存在を明らかにされ、疼痛管理や患者教育、個別性・具体性の高い介入方法についての示唆が得られた。

兵庫医科大学ささやま医療センターの竹原崇登作業療法士からは「兵庫県指定自動車教習所における自動車運転再開支援に関する実態調査」と題して報告された。兵庫県内の指定自動車教習所に対して行ったアンケート結果を分析することにより、教習所が必要としている情報や実車評価を進めていく上での課題について報告された。脳損傷者に対する自動車運転再開支援に向けて、今後より医療機関と教習所との連携が重要になることを認識することができた。

Ⅲ 参加状況

参加者はオンライン・オンデマンドを合わせて189名であった。参加者の内訳は、学校法人兵庫医科大学太城力理事長、学校法人兵庫医科大学三施設教職員、学校法人兵庫医科大学連携病院の会リハビリテーションスタッフ、兵庫医科大学リハビリテーション学部実習施設および卒業生の勤務する施設、兵庫医科大学の学生・大学院生などであった。

Ⅳ 今後の展望

兵庫医科大学内の教職員と関連施設から多数の参加者があったリハビリテーションセミナーが、今回リニューアルされ第1回目を迎えた。今後の時代背景を見据えたプログラムであり、オンラインとオンデマンド形式での開催が実施された。参加者たちは、超高齢化社会における医療人としての役割について活発かつ発展的な議論を交わした。

今後も学校法人兵庫医科大学内リハビリテーション関連施設の教職員は協働し、臨床を基盤とし共同

研究を含めた臨床研究を通じて、3施設の「臨床・研究」の関係性をより深めることが重要であると考えられる。また、教育においても、臨床実習をはじめとする具体的な発展につなげる必要がある。今後、医療現場での協働やチーム医療がますます求められる中、本法人の「多職種連携教育」はその重要性が高まっている。医学部や看護学部、薬学部など、様々な分野の学生たちも、リハビリテーションに関する知識や技術を身に付けることで、より高度な医療を提供することができる。また、さらなる連携や協力によって、より質の高い医療を提供することが期待されるであろう。

謝辞

このたび、第1回リハビリテーションセミナー実践報告をまとめるに当たり、ご協力を頂いた兵庫医科大学ささやま医療センターリハビリテーション室、兵庫医科大学リハビリテーション学部、兵庫医科大学医学部リハビリテーション医学講座および兵庫医科大学病院リハビリテーション技術部のスタッフの皆様に深謝いたします。